

寮生活でつながる絆

—大学学生寮の複合デザイン検討提案—

インテリア分野 柴崎ゼミ A2201707 兼田桃佳

研究の背景

会津短大の学生寮である一箕寮は築52年を過ぎ老朽化が進んでいる。現在建て替えを検討している。鉄筋コンクリート造2階建てではあるが、敷地に湿気がたまりやすい構造となっており、カビや虫の侵入等に悩まされている。また、敷地は狭隘な私道による接道となっており、現行の建築基準法の接道条件を満たしておらず、下水道の接続もできないため敷地内に浄化槽を設置し費用をかけて維持している状況である。そこで会津短大は現在、学生寮の移転新築に向けた検討会を立ち上げ、寮の建て替えを検討している。

研究の目的

本研究では、大学における学生寮について調査研究を行い、現地調査・ヒアリングで得た情報を考察・分析し、それらを踏まえて現在建て替えを検討している一箕寮のデザイン提案をする。

これまでの学生寮は様々な施設構成、運用形態がある。食事が提供され、風呂やトイレといった水回りを共用しながら自治によって共同生活を行う形態もあれば、キッチンや水回りは共用するものの、食事は大学の食堂等を利用する形式のもの、または寮として位置づけられてはいるが、一般のアパートやマンションでの生活と同じようにそれぞれの個室の玄関を持ち、まったく共用する部分がないものもある。

共用スペースを豊かにすることでコミュニケーションの場となり、自然と協働性が身につけられることが考えられる。共用スペースがもたらす効果について研究し、学生寮と共用スペースの複合化によって共同生活を豊かにするデザイン提案を行う。

計画(研究のプロセス)



- 国際教養大学等の寮の先進事例の文献調査(7月)
- 事例調査・ヒアリング調査(7月～10月)
宮城学院女子大学さくら寮 7月14日
会津大学聡明寮 10月15日
福島県立医科大学寮 10月24日
- 現在の一箕寮生のアンケート調査(10月～11月)
- デザイン提案(11月～12月)
- 模型作成(作成中)
- 論文作成(作成中)

成果もしくは考察

○調査



会津大学聡明寮



宮城学院女子大学さくら寮



福島県立医科大学寮



会津大学総明寮

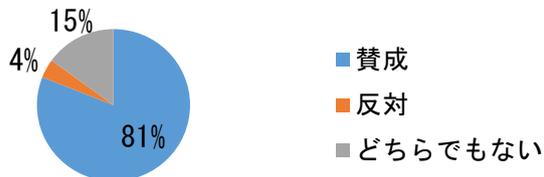
宮城学院女子大学さくら寮

福島県立医科大学寮

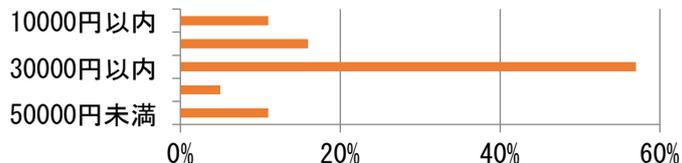
創明寮は共用部がフロアごとであったが、さくら寮・福島県立医科大学寮は寮全体とフロアごとに共用部があった。創明寮はフロア間、さくら寮・医科大学寮は寮全体で絆を感じられた。

○アンケート調査

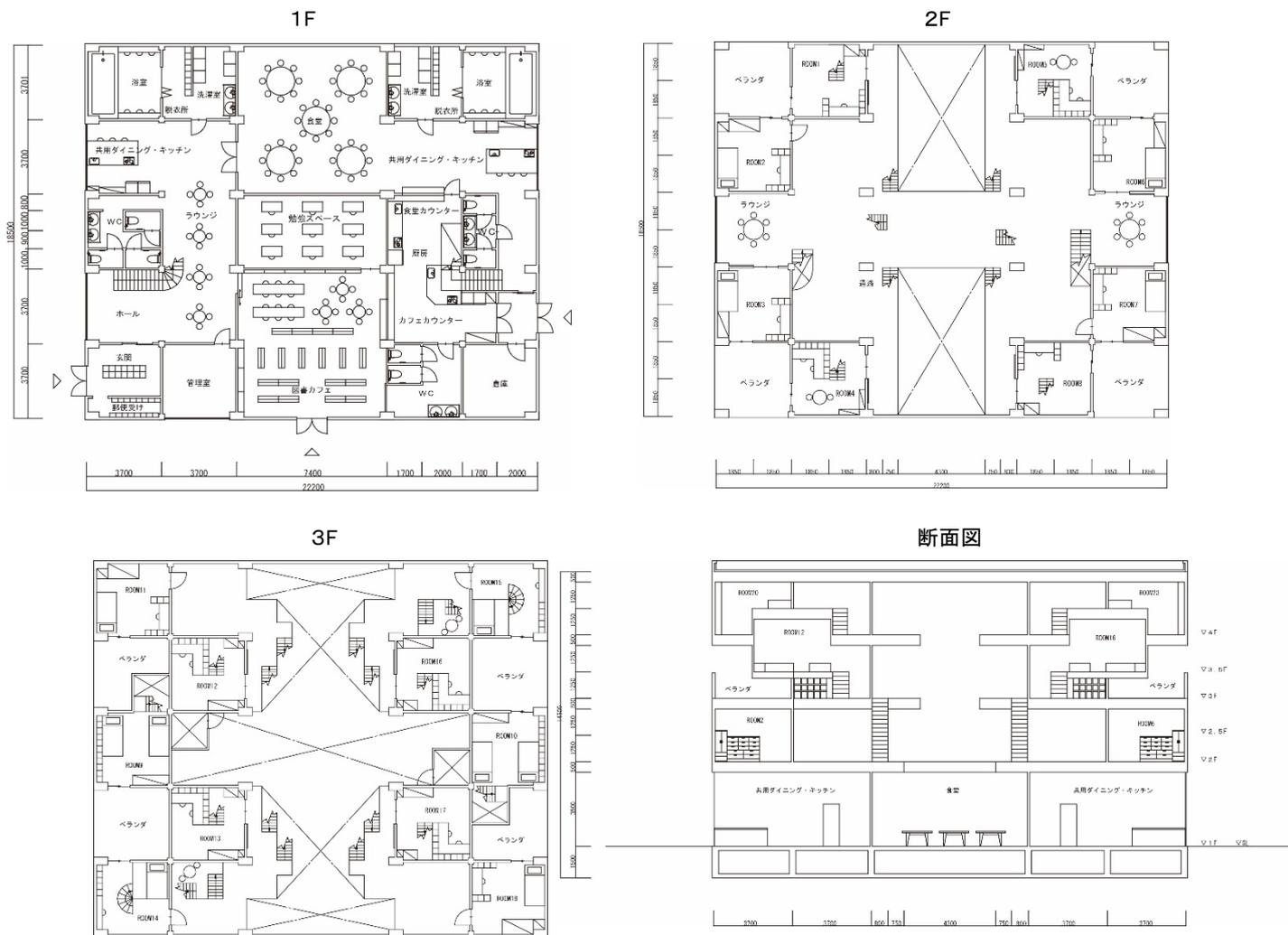
Q1.一箕寮の建て替えについてどう思うか。



Q2.月額何円なら入寮したいと思うか。



○成果物



○考察

一箕寮では、狭いスペースの2人部屋で共に生活をした学生が親友となり、卒業後も何度も会うような仲になったという話を聞く。共用スペースを所々に設けることによってコミュニケーションの場が点在し、あらゆる場所で学生たちの絆が生まれ、充実した学生生活ができると思った。